

# 豚熱(CSF)派遣用務について

畜産試験場 飼料環境担当

# 豚熱(CSF)について

○CSFウイルスにより起こる豚、いのししの伝染病で、強い伝染力と高い致死率が特徴。

○感染豚は唾液、涙、糞尿中にウイルスを排泄し、感染豚や汚染物品等との接触等により感染が拡大。

○治療法は無く、発生した場合の家畜業界への影響が甚大であることから、家畜伝染病予防法の中で監視伝染病に指定。

# 豚熱(CSF)の症状

特徴的な症状が無く、気がつきにくい疾病

発熱、食欲不振、元気消失等、うずくまり、便秘に続く下痢、呼吸障害等



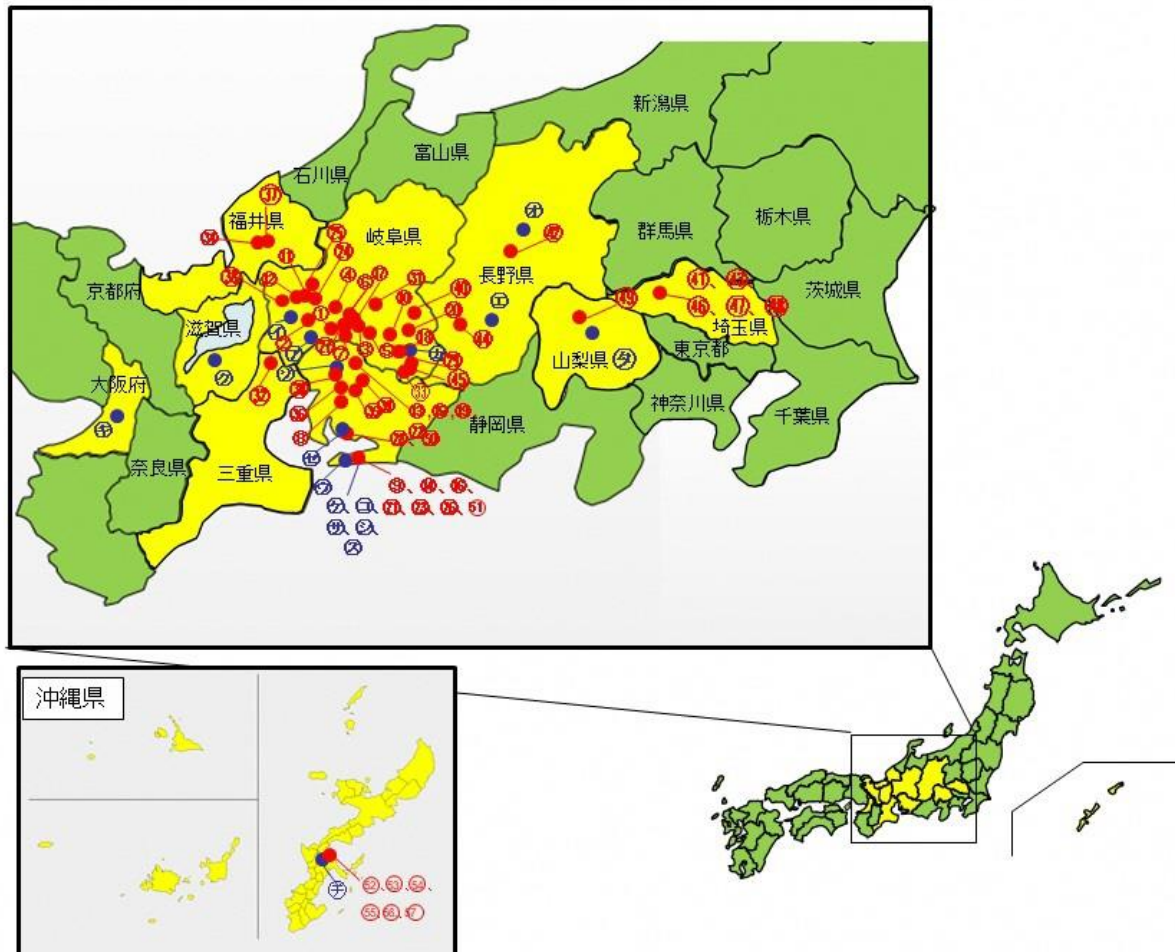
重症例は後躯麻痺・運動失調・四肢の激しい痙縮などの神経症状、皮下出血による紫斑(耳翼、尾、腹部、内股部)を呈し死亡。

農林水産省HP(CSF写真)

# 豚熱(CSF)の国内発生状況について

## CSFの防疫措置対応(概要)

令和2年2月26日 9時00分現在



平成30年9月9日、岐阜県の養豚農場において、日本では、平成4年以来26年ぶりとなる豚熱の発生が確認。

令和2年2月26日までに岐阜県、愛知県、長野県、滋賀県、大阪府、三重県、福井県、埼玉県、山梨県、沖縄県(1府9県)の57農場での発生が確認。

平成30年9月以降、岐阜県、愛知県、三重県、福井県、長野県、富山県、石川県、滋賀県、埼玉県、群馬県、静岡県、山梨県(12県)において野生いのししから豚コレラの陽性事例が確認。

農林水産省HP(国内発生状況)

# 豚熱(CSF)派遣用務

1. 愛知県瀬戸市(殺処分作業)
2. 沖縄県うるま市、読谷村(発生状況確認検査)

# 愛知県への派遣

- |           |   |
|-----------|---|
| 1. 農場     | 国内19例目の発生農場   |
| 2. 飼養頭数   | 一貫経営(繁殖豚、肥育豚) 計4,562頭   |
| 3. 作業内容   | 殺処分   |
| 4. 期間     | 平成31年4月11日～13日  |
| 5. 派遣依頼   | 香川県2名   |
| 6. スケジュール | 1) 10時30分～18時30分(3クール)<br>2) 18時30分～ 2時30分(3クール)<br>3) 2時30分～10時30分(2クール) |

# 殺処分までの流れ(1)

0:30 高蔵寺駅前集合

動員者：獣医師6名、フォークリフト要員3名、防護服着脱介助係10名  
一般動員者約50名

- 1) 獣医師、フォークリフト要員、防護服着脱介助係を確認し、バスの前列に乗車。
- 2) 一般動員者を乗車。
- 3) バスの中で出席者名簿に各自名前を記入。
- 4) 約30分で一次集合場所に到着。

## 殺処分までの流れ(2)

当日 1:00

一次集合場所(クリーンセンター)に到着

- 1)バス内で記入した出席者名簿で確認され、建物内へ靴を持って入る。
- 2)70Lのゴミ袋に名前を書き、着替えと靴を入れる。
- 3)防護服2枚の胸と背中に県名と名前を書き、左肩に動員のクール番号を書く。防護服を2枚着用する。
- 4)リフトの人はガムテープにリフトと書いて、左腕に貼る。
- 5)防護服を着たらクロックスをはいて、バスに乗る。
- 6)約15分で農場到着。



# ベースキャンプから農場までの着衣



## 殺処分までの流れ(3)

当日 2:00 農場詰所に到着

- 1) 帽子、マスク、ゴーグル、インナー手袋、アウター手袋を着用し、アウター手袋に養生テープをつけてもらう。
- 2) 長靴に履き替え、養生テープをつけてもらい農場へ入る。

当日 2:30 殺処分の開始

- 1) 県外獣医師は1班2名体制で農場に入り、殺処分を実施。

1日目: 電殺2班(肥育豚)、ガス殺1班(子豚)

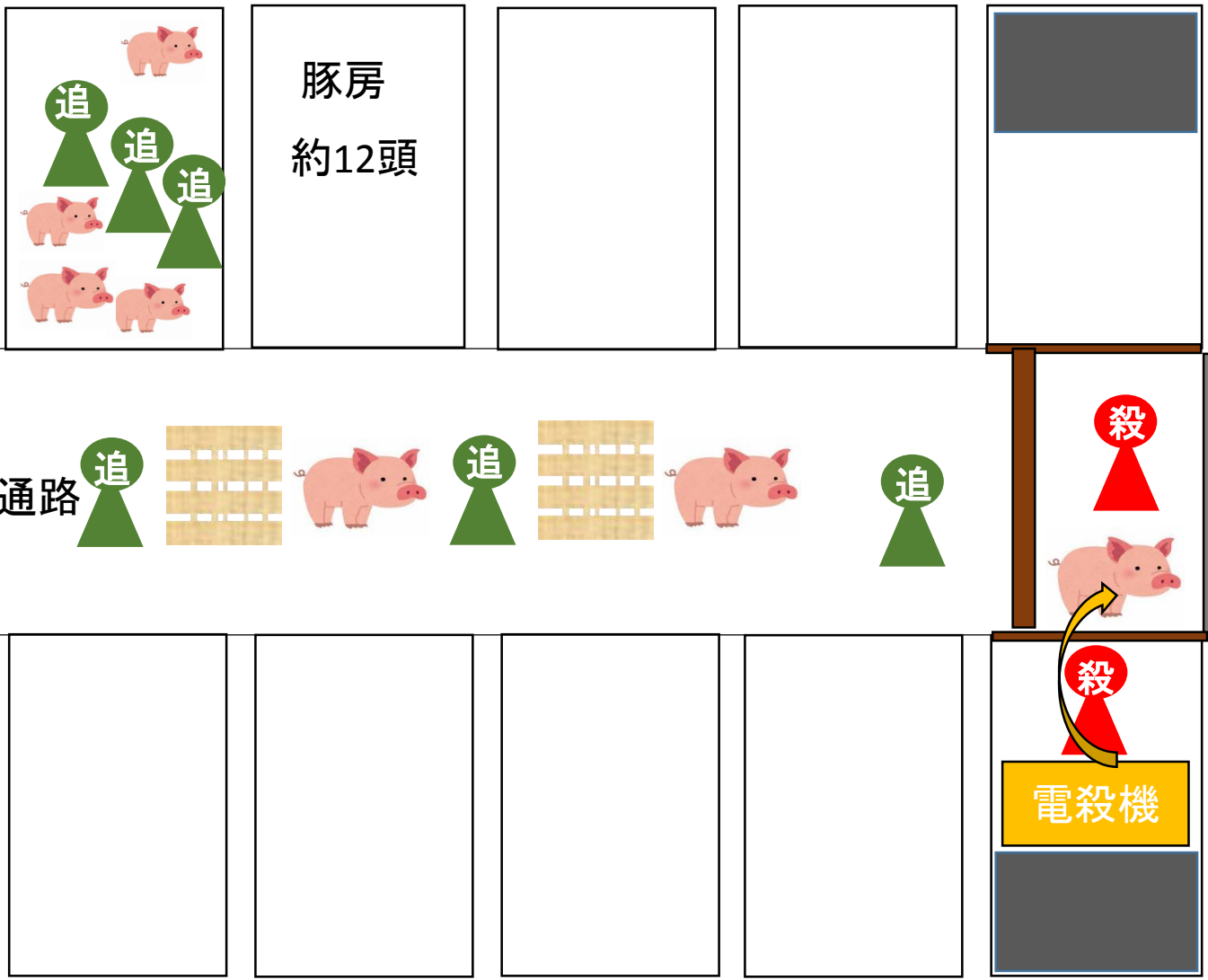
2日目: 電殺2班(肥育豚)、薬殺1班(繁殖母豚)



# 農場での着衣

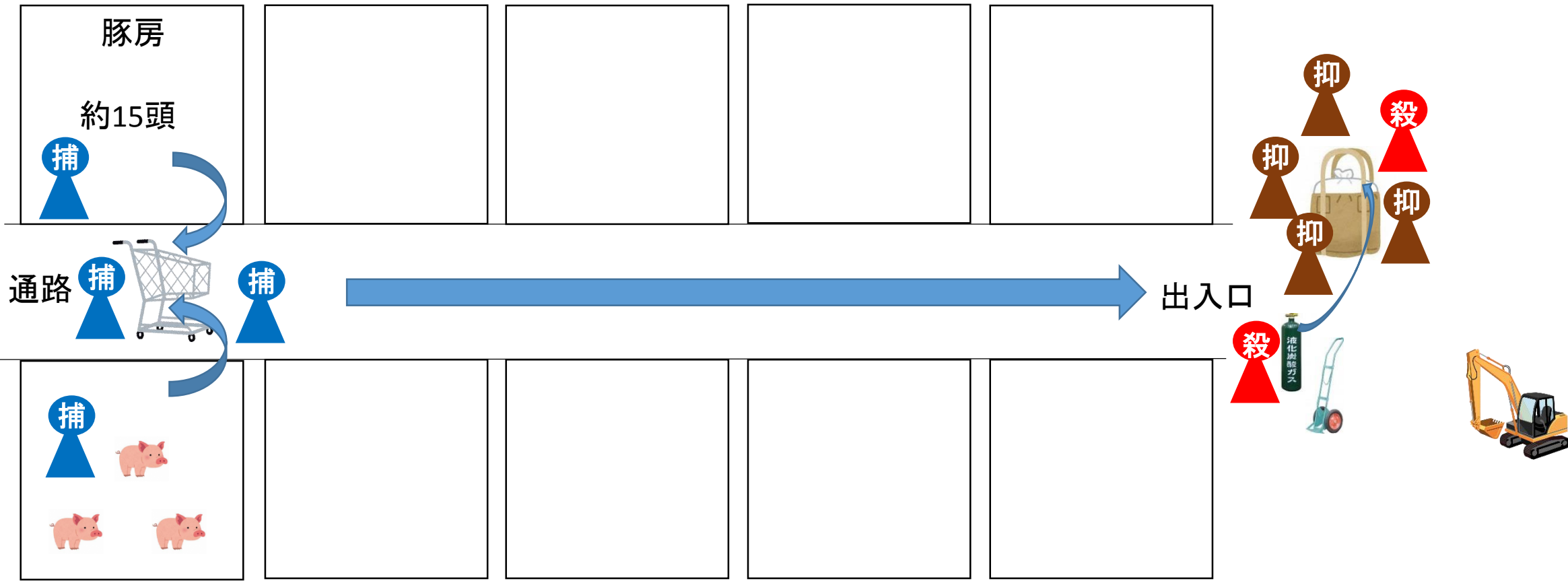


肥育豚の場合



- ・追い出し係 約6名(一般職員)
- ・殺処分係 2名(獣医師)  
電殺要員、電殺スイッチ要員
- ・死亡豚引き出し係・フレコン詰め係  
6名ほど(一般職員)
- ・フレコンバックには約2頭
- ・1時間は5~6頭ペース

子豚の場合

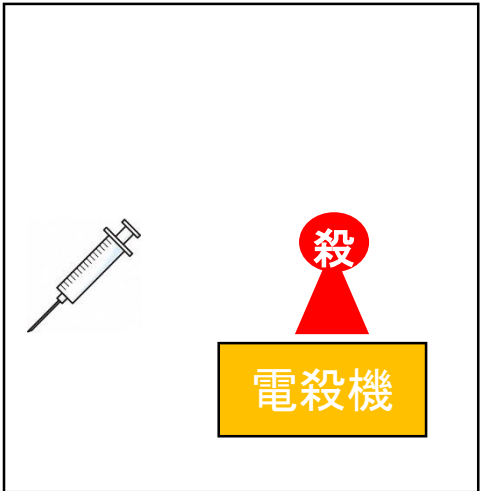
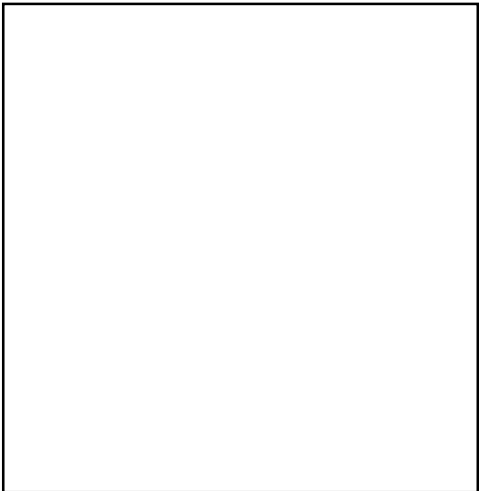


- ・捕獲係 4名
- ・2ヶ月齢未満の豚対象
- ・フレコンバッグ1袋に30~40頭
- ・フレコンバッグの中にビニールを敷く

- ・フレコンバッグの口を4名で押さえる。
- ・ガス殺処分係 2名(獣医師)約3分  
コルク担当、死亡確認担当
- ・1時間200頭ペース

母豚の場合

豚房  
1頭



通路

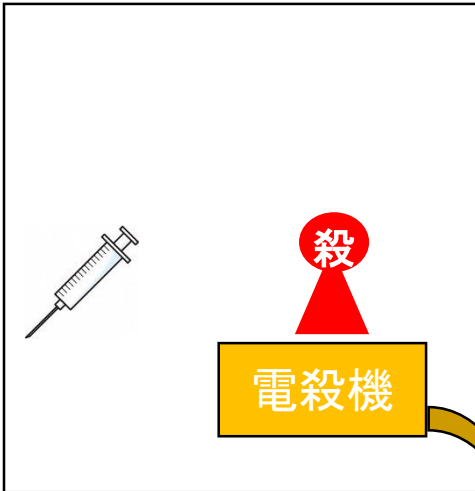
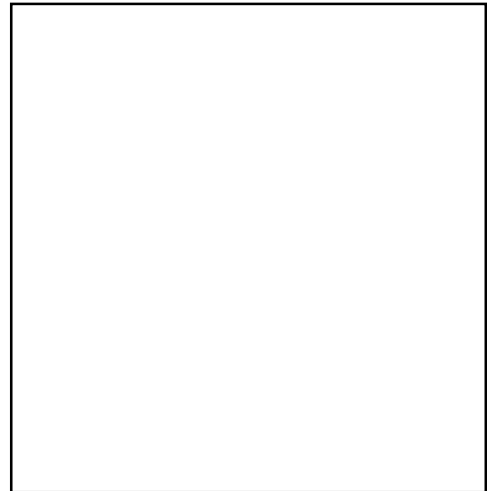


出入口

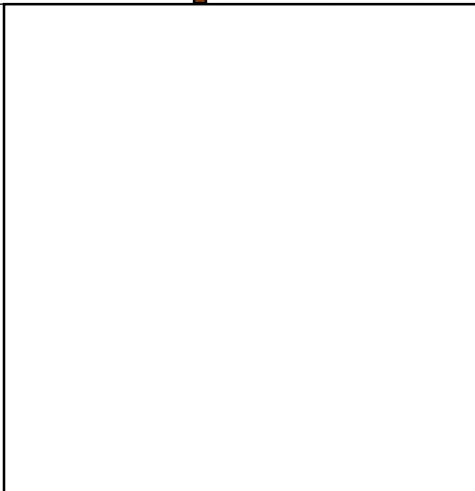
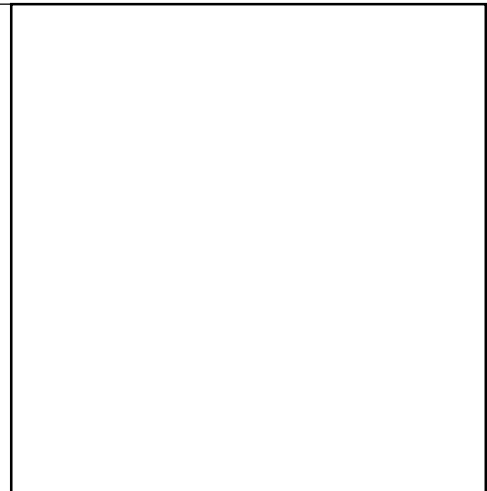
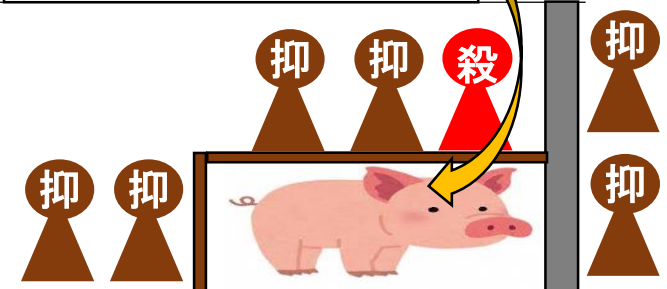
・追い出し係 3名

母豚の場合

豚房  
1頭



通路

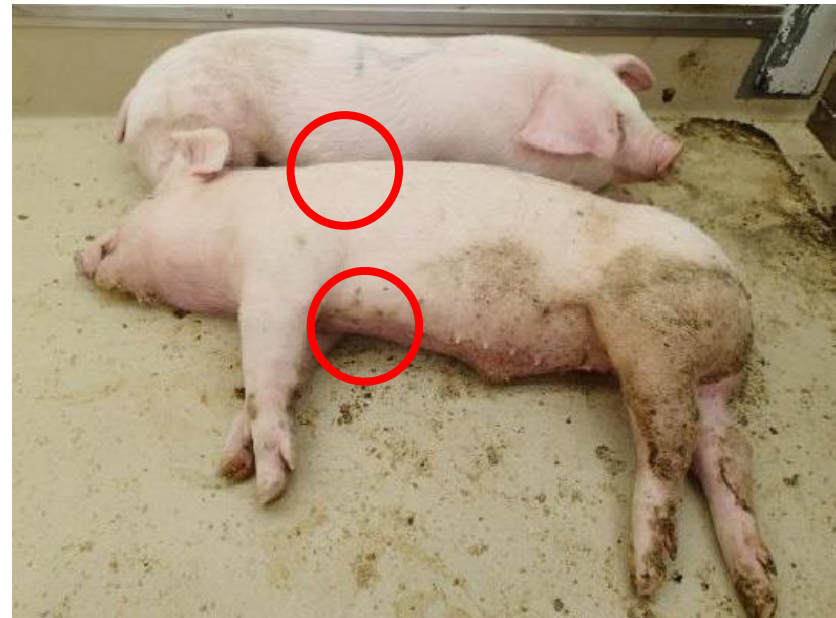
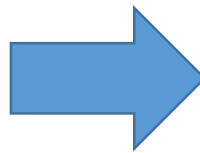
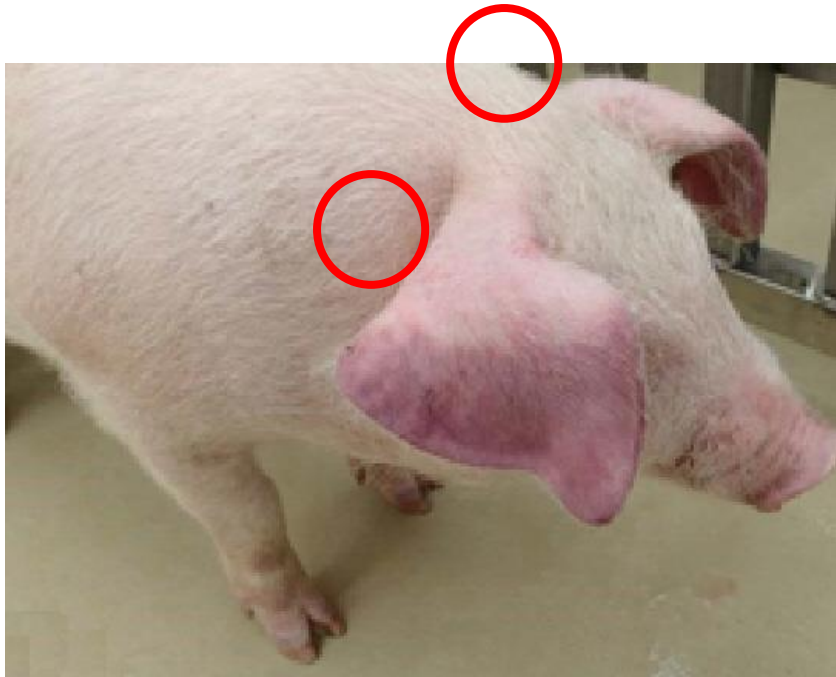


- ・抑え係 6名  
  追い出し係は兼任
- ・殺処分係 2名  
  電殺後、パコマ40mℓを心臓注射
- ・豚引き出し係とフレコン詰め係は、  
  殺処分係以外全員
- ・フレコンバックには1頭
- ・1時間で約4頭ペース



# 電殺の方法

1. 狭いスペースに豚を閉じ込める。
2. 電極を当てるところに霧吹きで水をかける。
3. 耳の後ろに電殺機を当て、気絶させる。
4. 心臓と背中を電殺機ではさむ。(10秒×8回)
5. 死亡を確認する。(眼瞼反射、口元・足の動きの確認)





## 作業終了以降の流れ

1. 消毒槽で長靴の汚れを落とす。
2. 動力噴霧器で体全体と長靴の足裏を洗い流す。
3. 長靴、防護服(外)、帽子、マスク、ゴーグル、アウター手袋、インナー手袋を脱ぐ。
4. クロックスに履き替える。
5. 防護服(内)とクロックスで、バスに乗り、ベースキャンプへ移動する。
6. ベースキャンプで着替え、殺処分時に身に着けていたものを全て捨てる。
7. バスで最初の集合場所へ移動し、解散。

## 埋却について

1. 今回の発生農場（国内19例目）は、12日前に同一敷地内にある別農場（国内15例目）で豚熱（CSF）の発生があった。
2. 国内15例目の発生農場と隣接農場の経営者は別で、器具等の貸し借りがなかったことから、殺処分の対象から外れていた。
3. 国内15例目の埋却は、農場の近くにある県有地を利用した。
4. 今回の19例目の農場は、国内15例目と同じ場所の県有地に埋却となったが、関係者は発生を見越して、埋却準備は事前に進めていた。

# 沖縄県への派遣

1. 農 場 国内52、53例目農場から半径3km以内にある養豚場
2. 作業内容 発生状況確認検査
3. 期 間 令和2年1月13日～17日
4. 派遣依頼 香川県2名
5. スケジュール 令和2年1月14日、16日（15日は待機）

## 清浄性確認検査の流れ(1)

- 前日 19:00 家保から翌日検査する農場名の連絡を受ける。
- 当日 9:00 県庁駐車場に集合し、作業説明を受け、担当運転手の公用車で担当農場のある市役所へ行く。
- 当日 10:30 市役所で、農場までの道案内役と合流する。
- 当日 11:00～ 防護服1枚、帽子、マスク、手袋1枚、長靴を着用し、  
豚採血(一農場30頭採血、1頭当たりプレーンとEDTAの2本採血)  
聞き取り調査(豚舎見取り図、餌購入先等)

## 清浄性確認検査の流れ(2)

- 当日 13:30 作業終了後、消毒ポイントを通過してから、家畜衛生試験場に検体を届ける。
- 当日 14:30 家畜衛生試験場で検体を渡し、車外・車内の消毒をしてもらう。
- 当日 15:30 消毒ポイント通過後、沖縄県庁に到着。解散。

# 派遣の感想

1. 責任のある仕事で重圧は大きかった。
2. 発生県の人たちは数か月に及ぶ1日12時間労働で疲労が見えた。